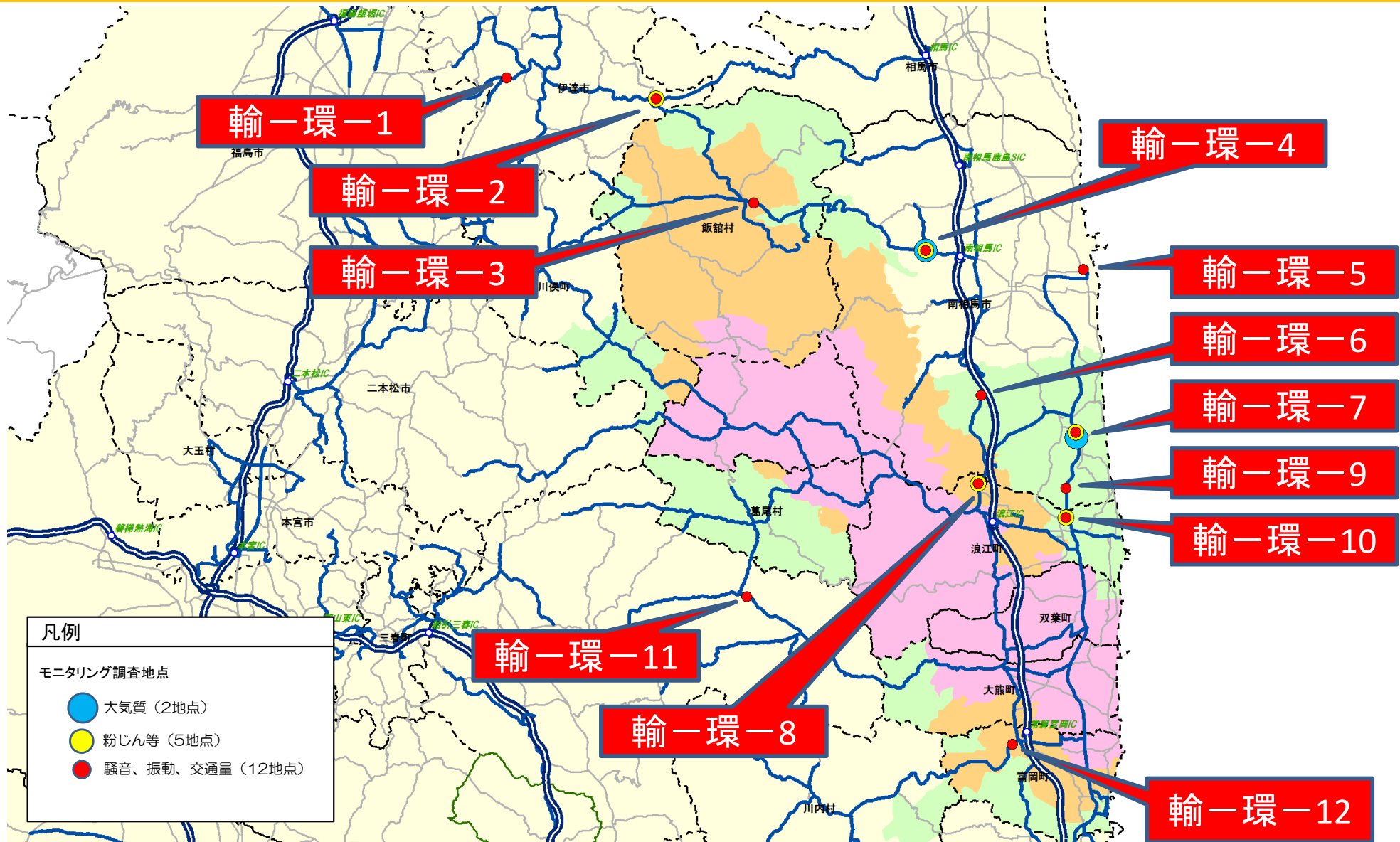


# 輸送路における環境調査

輸送車両の通過地点において騒音、振動、大気質（二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん等）の測定を実施し、沿道における生活環境への影響を確認している。



輸送路における環境調査の測定地点

# 輸送路における環境調査結果① 騒音

## 輸送路における騒音の測定結果(2018年度)

地点			騒音[dB]		昼間16時間交通量(朝6時～夜10時)[台]			
			事前調査	輸送時調査	事前調査	輸送時調査	うち大型車両 うち輸送車両	
環境基本法に基づく環境基準			70	70	—	—	—	—
騒音・振動規制法に基づく要請限度			75	75	—	—	—	—
輸一環一	伊達市霊山町 下小国山岸	一般国道 115号	66	66	6,759	10,329	1,229	22
輸一環二	伊達市霊山町 石田	一般国道 115号	61	63	2,718	1,432	339	30
輸一環三	相馬郡飯館村 草野赤坂	県道 原町川俣線	70	69	6,669	5,019	1,151	236
輸一環四	南相馬市原町区 大原	県道 原町川俣線	69	67	7,179	5,343	1,137	24
輸一環五	南相馬市原町区 北泉南走	県道 北泉小高線	62	64	742	2,551	767	28
輸一環六	南相馬市小高区 大富	県道 相馬浪江線	63	62	2,096	2,009	403	21
輸一環七	南相馬市小高区 福岡白山	一般国道 6号	70	70	8,042	9,807	3,156	54
輸一環八	双葉郡浪江町 立野	県道 相馬浪江線	58	64	750	1,604	397	19
輸一環九	南相馬市小高区 行津	一般国道 6号	<u>72</u>	<u>71</u>	8,562	8,569	3,059	63
輸一環十	双葉郡浪江町 藤橋	一般国道 6号	<u>71</u>	70	9,065	8,620	2,593	98
輸一環十一	田村市都路町 岩井沢	一般国道 288号	66	68	4,076	4,567	983	123
輸一環十二	双葉郡富岡町 上手岡	県道 小野富岡線	65	65	2,353	2,722	1,043	96

※ 騒音、交通量とも昼間(6時～22時)の測定結果。 ※ 騒音の値は等価騒音レベル(L<sub>Aeq</sub>)。 ※ 下線は環境基準を超過したものを示す。

# 輸送路における環境調査結果② 振動

## 輸送路における振動の測定結果(2018年度)

地点			振動[dB]		昼間12時間交通量(朝7時～夜7時)[台]		
			事前調査	輸送時調査	事前調査	輸送時調査	うち大型車両 うち輸送車両
環境基本法に基づく環境基準			—	—	—	—	—
騒音・振動規制法に基づく要請限度			70	70	—	—	—
輸一環一	伊達市霊山町 下小国山岸	一般国道 115号	38	39	5,761	8,922	1,125 22
輸一環二	伊達市霊山町 石田	一般国道 115号	33	29	2,350	1,296	307 30
輸一環三	相馬郡飯館村 草野赤坂	県道 原町川俣線	52	53	5,914	4,500	1,039 192
輸一環四	南相馬市原町区 大原	県道 原町川俣線	33	29	6,178	4,736	1,060 24
輸一環五	南相馬市原町区 北泉南走	県道 北泉小高線	25未満	29	704	2,267	750 28
輸一環六	南相馬市小高区 大富	県道 相馬浪江線	35	32	1,794	1,754	388 21
輸一環七	南相馬市小高区 福岡白山	一般国道 6号	49	52	6,792	8,346	2,785 54
輸一環八	双葉郡浪江町 立野	県道 相馬浪江線	25未満	28	616	1,396	383 19
輸一環九	南相馬市小高区 行津	一般国道 6号	57	57	7,354	7,210	2,676 63
輸一環一〇	双葉郡浪江町 藤橋	一般国道 6号	57	56	7,792	7,248	2,242 98
輸一環一一	田村市都路町 岩井沢	一般国道 288号	38	43	3,476	3,903	905 123
輸一環一二	双葉郡富岡町 上手岡	県道 小野富岡線	38	37	2,096	2,426	1,022 96

※ 振動、交通量とも昼間(7時～19時)の測定結果。 ※振動の値は80%レンジ上端値(L10)。

# 輸送路における環境調査結果③ 大気質(二酸化窒素、浮遊粒子状物質)

## 輸送路における二酸化窒素、浮遊粒子状物質の測定結果(2018年度)

地点			区分	二酸化窒素[ppm]		浮遊粒子状物質[mg/m <sup>3</sup> ]		24時間交通量[台/日]			
				事前調査	輸送時調査	事前調査	輸送時調査	事前調査	輸送時調査	うち大型車両	
			環境基準	0.06	0.06	0.10	0.10			輸送車両	
輸一環一4	南相馬市 原町区 大原	県道 原町 川俣線	春季	0.005 (0.003~0.008)	0.006 (0.002~0.010)	0.011 (0.005~0.019)	0.011 (0.005~0.024)	7,807	5,605	1,220	24
			夏季	0.003 (0.002~0.006)	0.004 (0.003~0.006)	0.010 (0.006~0.019)	0.012 (0.004~0.026)	7,686	5,603	1,213	169
			秋季	0.004 (0.002~0.005)	0.006 (0.003~0.008)	0.012 (0.007~0.017)	0.006 (0.003~0.009)	7,300	5,666	1,370	199
			冬季	0.007 (0.004~0.012)	0.006 (0.004~0.008)	0.009 (0.005~0.012)	0.011 (0.004~0.017)	6,608	4,752	1,257	71
輸一環一7	南相馬市 小高区 福岡有山	一般国道 6号	春季	0.006 (0.001~0.009)	—	0.012 (0.005~0.019)	—	10,809	—	—	—
			夏季	0.005 (0.002~0.009)	0.005 (0.002~0.010)	0.011 (0.007~0.018)	0.012 (0.005~0.027)	10,914	10,939	3,763	54
			秋季	0.007 (0.003~0.010)	0.008 (0.003~0.015)	0.011 (0.006~0.017)	0.007 (0.002~0.011)	11,822	11,674	4,625	50
			冬季	0.009 (0.002~0.015)	0.008 (0.004~0.013)	0.006 (0.004~0.009)	0.010 (0.003~0.015)	10,586	11,912	4,901	72

※ 二酸化窒素、浮遊粒子状物質は7日間測定。

※ 二酸化窒素、浮遊粒子状物質の測定値は調査期間平均値、カッコ内は日平均値の最小値～最大値。

※ 環境基準は環境基本法に基づく年間評価の値。

※ 輸送時調査が“—”の地点は、調査期間中に輸送車両の通過がなかった。

# 輸送路における環境調査結果④ 大気質(粉じん等)

## 輸送路における粉じん等の測定結果(2018年度)

地点			区分	粉じん等[t/km <sup>2</sup> /月]		24時間交通量[台/日]			
				事前調査	輸送時調査	事前調査	輸送時調査	うち大型車両	
			参考値	(20)	(20)			輸送車両	
輸一環一2	伊達市 霊山町石田	一般国道 115号	春季	5.8	—	4,781	—	—	—
			夏季	—	3.6	—	1,680	746	58
			秋季	—	2.3	—	1,463	340	30
			冬季	3.1	—	2,842	—	—	—
輸一環一4	南相馬市 原町区大原	県道 原町川俣線	春季	3.2	2.2	7,807	5,605	1,220	24
			夏季	2.5	1.4	7,686	5,603	1,213	169
			秋季	2.6	1.7	7,300	5,666	1,370	199
			冬季	14.3	3.8	6,608	4,752	1,257	71
輸一環一7	南相馬市 小高区 福岡有山	一般国道 6号	春季	2.5	—	10,809	—	—	—
			夏季	2.2	2.9	10,914	10,939	3,763	54
			秋季	3.0	1.1	11,822	11,674	4,625	50
			冬季	3.5	7.4	10,586	11,912	4,901	72
輸一環一8	双葉郡 浪江町立野	県道 相馬浪江線	春季	4.7	—	790	—	—	—
			夏季	3.4	2.7	1,009	1,674	409	19
			秋季	6.2	1.8	777	2,019	587	38
			冬季	5.4	3.2	959	1,868	426	39
輸一環一10	双葉郡 浪江町藤橋	一般国道 6号	春季	6.8	—	9,581	—	—	—
			夏季	5.2	11.2	9,513	9,680	3,207	98
			秋季	7.4	13.7	10,076	11,518	5,650	86
			冬季	9.2	14.6	9,605	11,272	5,027	137

※ 粉じん等は15日間測定。  
 ※ 粉じん等は法令に基づく基準値はないため、「道路環境影響評価の技術手法(国土技術政策総合研究所)」の参考値を比較のため掲載。  
 ※ 輸送時調査が“—”の地点は、調査期間中に輸送車両の通過がなかった。

# 輸送路における環境調査結果(まとめ)

○騒音については、事前調査より輸送時調査の騒音レベルが増加した地点は4地点、減少した地点は5地点、変わらなかった地点は3地点であった。また、環境基準超過地点数は、事前調査の2地点から輸送時調査の1地点と1地点の減少となった。これは、輸送車両の台数が少ないのに対して一般車両の台数の変動が大きいため、輸送車両による騒音レベルの影響が小さく、一般車両の変動による影響が大きいと考えられる。

○振動は、事前調査と輸送時の測定結果に大きな差は見られず、また、全ての地点で要請限度を下回った。

○大気質について、二酸化窒素、浮遊粒子状物質は事前調査と輸送時調査で測定結果に大きな差はなかった。また、全ての調査結果が環境基準を下回った。

○粉じん等についても、全ての地点、全ての期間において参考値を下回った。

○今後も引き続きモニタリングを実施し、輸送に伴う環境への影響を評価するとともに、制限速度の遵守、急発進及び急加速の抑制等を引き続き行うことで、輸送量がさらに増加した後についても騒音等への影響の低減に努める。